



発行責任者：栃木市教育委員会
 委員長 後藤 正人
 住所：栃木市万町9-25
 電話：0282-21-2461
 FAX：0282-21-2689



日光東照宮陽明門の彫刻

「遊びのススメ」

～生涯学習力を支える“遊び”の意義～



教育委員長 後藤正人

徳川家康によって天下統一がなされ「遊ぶ子どもの姿は天下泰平のシンボル」という遺訓を後世に伝えるため、

日光東照宮の陽明門には30の彫刻が施してあります。これには、子どもは豊かな自然環境の中で遊ぶことが何よりも大切であるというメッセージが込められています。中でも、二人の子どもが喧嘩をしている彫刻があり、周りに三人の子がいます。左端の二人は、喧嘩を見て見ぬ振りをしています。右端の子は殴ろうとしている子の腕をつかんで必死に止めようとしています。この彫刻には、いじめ解消のヒントが隠されているように思えます。

近頃、原っぱや公園で子ども達の遊ぶ姿が見られなくなってきました。こうした現状を憂慮し、10数年前にあちこちで公園が造成されました。それらの多くは危険を遠ざけ、草木などを整然と植え込み、池を掘り、噴水を設け、滑り台やブランコなど様々な遊具を設置しました。ところが、樹木や草花などが整備されていても、大抵が柵に囲まれ、側に近寄ったり、木に登ったりすることが出来ません。遊具などの施設も画一化した物が多く、子どもの探究心や冒険心を揺さぶる対象にはならなかったようです。以前は、子ども自身が遊びを見付け、遊び道具を作り、皆で考えたルールで楽しんでいました。しかし、現代は、大人社会が作った器具と既成のルールに制約された中で遊ぶことが主流になっています。また、ゲーム機など屋内での一人遊びが急増している一方、鬼ごっこ・隠れんぼ・缶蹴りなど屋外での集団遊びは激減しています。特に身体的な遊びの減少は、子どもの将来の生き方に大きな影響を及ぼすことが危惧されています。

本市の名誉市民で文豪で知られる山本有三先生は、幼少の頃、錦着山や永野川で泥んこになるまで遊んだことが書に記されています。家事や家庭内の所作を体験する「ままごと遊び」は、ある意味で大人の真似をしながら、社会へ出るための準備をしているのです。したがって、社会や大人のやることが変われば、遊びも変化します。遊びは社会の世相を映し出す鏡とも言えます。

本来、子どもは遊びながら、手加減を体得し、危険から己を守る術を身に付けます。さらに、物事の道理を知り、良好な人間関係を育み、生涯を貫く問題解決力を身に付けていくのです。このように、遊びには、未来へ向かって生き抜く子どもの成長に欠かせない“豊かな学び”を内包しています。まさに遊びは、生涯を支える“学びの原点”と言えるのです。



栃木市教育ニュース

栃木市教育委員会では、‘ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり’をスローガンに掲げ、本市ならではの教育を推進しています。

今号の『栃木市教育ニュース』では、スポーツ関連の話題を市民の皆様にお知らせします。

栃木市では、「元気はつらつスポーツコミュニティとちぎ」をめざし、スポーツを通じて、市民の健康増進と連帯感あふれる栃木市を作ることとした2つの大きなイベントを平成25年度から実施しております。今年度、共に「第5回」を迎えるそれぞれの事業を紹介いたします。



「第5回栃木市民スポーツフェスティバル」

合併後の栃木市民の一体感をスポーツで盛り立てましょう!と連帯感あふれる栃木市を目指すために、栃木地域の各支部と大平地域、藤岡地域、都賀地域、西方地域、岩舟地域で構成する15チームが、栃木市総合運動公園を中心に、軟式野球、ソフトボール、卓球など12種目19競技で、毎年3,000人を超える選手が熱戦を繰り広げます。開会式での栃木市民吹奏楽団の生演奏による選手団の入場行進も、見ごたえあるものとして、回を増すごとに観客席での応援も増えてきています。今回は第5回という節目の回ということもあり、レクリエーションの種目に新たに長縄跳びを行なうことにしました。また応援の方もその場で参加して楽しんでいただけるようスポーツ〇×クイズを行いますので、選手以外の方もぜひ会場へお越しいただき第5回栃木市民スポーツフェスティバルを楽しんでいただきたいと思います。

★日程 H29.8/20(日) 8/26(土) 8/27(日) ゲートボールのみ8/21(月)

★会場 栃木市総合運動公園 他



「第5回栃木市ウォーキング大会」

栃木市ウォーキング大会は、参加者に自らの健康増進と栃木市の魅力を知っていただくことを目的に、藤岡地域を出発し道の駅にしかたまで、各地域の風景や特色を感じながら本市を縦断する30キロコース、藤岡地域と岩舟地域を回り三轟山を望む20キロコース、渡良瀬遊水地を歩く10キロコースの3つのコースで開催します。市内・市外からのリピーターも多く、また、第3回ではお笑い芸人の小島よしおさん、昨年(第4回)は本市出身、女優で本市ふるさと大使の石川恋さんといった素敵なゲストをお迎えし、参加者と一緒に10キロコースを歩いていただきました。今回も素敵なゲストを予定していますので是非楽しみにしていただき、多くのみなさまに参加していただきたいと思います。

★日程 H29.10/29(日)

お申込みは9/1(金)より ※参加費あり。

先着1,000名様

※申込み方法の詳細は市の広報・ホームページでご確認ください。





教育委員の活動日誌

教育委員の活動は、毎月の定例教育委員会をはじめ多岐にわたっています。今号では、それらの活動を通して感じる各委員の「栃木市の教育に対する思い」を紹介します。

栃木市の教育の魅力 ～教育委員の思い～



かつて新型インフルエンザが猛威をふるい、日本の各地で小中学生の修学旅行が取りやめになったとき、栃木市の職員たちは、「文科省が何を言ってきたても、子どもたちが修学旅行に行けるよう頑張ろう」と走り回ってくれた。

親や教師だけでなく、「子どもたちのために、自分にいったい何ができるか」を考え行動してくれる人がある。それこそが栃木市民の良さであり、今でも思い出すたびにあたたかい気持ちになる。

福島 鉄典 教育委員

栃木市では、本年度より市内全小中学校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を完全導入しました。これは「地域と共にある学校づくり」を目指して保護者の方、地域住民の方、学校の先生が学校運営協議会の委員となり、学校や地域の教育的な課題について協議し、実行していくことを目的としています。

私も地域住民として微力ながら地元中学校の委員をさせていただいています。子どもたちにとってより良い学校にするために皆さんのご協力、ご理解をよろしくお願いいたします。

若林 由美子 教育委員

合併して、栃木市は南北に広い町になった。この広さが産み出す多様性は教育環境・教育資源として素晴らしいものだと思う。

北部にはホタルが飛び交う自然豊かな里がある。中央部には歴史を感じる古い街並みが残っているし、南部には広大な遊水池がある。

他にも素晴らしい自然環境があるし、学校給食にも使われる地元産食材も豊富である。

これらは子どもたちの学習にいろいろな深みを与えてくれると思う。これらの財産を大切に守りながら、栃木市の教育がどのように進んでいくか楽しみにしている。

荒川 律 教育委員長職務代理者

先日市内学校の運動会を見学させていただきました。小学校ではあいにく雨模様。でも開催を信じる子どもたちの為に、先生やPTAの役員の方々が校庭のあちこちで台羽を着て、雑巾両手に水たまりの水を吸い取っていました。

そのうち多くの父兄や来賓の方も加わり校庭整備を…そんな一生懸命な様子に、当たり前のように「地域とともにある学校」の姿を見た気がしました。

晴天に恵まれた中学校では、徒競走で転んでしまった友達を気遣うなどの「思いやり」の姿が印象的でした。とても心に残る運動会でした。

西脇はるみ 教育委員

子どもってというのは、仮に陰と陽とに分類するならば、陽に属します。大空に一すじ伸び始めたタケノコのように。だからもし、生活面でも勉強面でも曲がりそうなら、生命力を抑えるのではなく、先に叱りその後ほめてもらいたい。まず方向性を修正してから、うばいげの生えた木肌をさすってもらいたい。悩み腐って根ぐされを起こすのではなく、太陽に心に向けてもらいたい。

PTA、先生、地元民たちのそんな願いにより、市内小中44校すべてに、竹林が勢いよく生い茂っています。

林 慶仁 教育委員

平成29年度 栃木市教育委員の紹介！



【前列左より】

赤堀 明弘 教育長
荒川 律 委員
(教育委員長職務代理者)
後藤 正人 教育委員長
福島 鉄典 委員

【後列左より】

西脇 はるみ 委員
林 慶仁 委員
若林 由美子 委員

教育長 通信

‘未来を志向した栃木市の教育’

本年度より、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と、それを基盤に小中9年間の教育を一貫して行う、小中一貫教育が、市内公立小中学校の全校、全中学校区ブロックで、一斉にスタートしました。これまで着々と進めてきた‘ふるさとの風土で育む’教育が大きく‘一歩’、また新たな歩みを始めます。

（なお、その内容・様子につきましては、各学校からの「学校だより」やホームページにおいて保護者や地域の方々へ発信されております。）

「そもそも、子どもたちの未来から託され、その子の未来を育む教育。時代や世相の時々を反映しながらも、常に未来を志向して確かな‘歩’を進める。その‘近未来から託されている’営みを、市内の全ての小中学校と教育委員会が歩みを‘一’にしながらか進める。」

栃木市の教育の在り方として、そう考える所存です。

いいまちにはいい学校がある＝いい学校はいいまちをつくる

教育長 赤堀 明弘

— 栃木市定例校長会（4月・5月）での話から（抜粋） —

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は本年度より、「栃木市の教育」に関する情報提供をより充実させるため、発行回数を増やし、年間3回の発行になります。市民の皆様にとって、栃木市教育委員会がより身近かな存在になることを願っています。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2461 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp